

**奏でているのは、
ホテルとトゲチョと月見草の
のどかなコンチェルト。**

村の中学生が奏でる吹奏楽の音色は、
田園都市を吹き渡る涼風の香り高い調べに抱かれています。
自然喪失が著しい世相の今では、異国情緒さえ感じさせる螢火と、
巣を作る珍妙な魚・トゲチョと、幻想的な月見草の装いが、
北会津育ちの詩情豊かな気風を育てていくのです。

**高
め
よう、
個性と
創造力。**



「村」の語源は「群がり」とも
いわれます。
ここ北会津村には、人々が
肩を寄せあうようにして
天災から暮らしを守りあい、
共同の力で個々の願いをかなえ、
夢を実現しあいながら、
社会を創り発展させてきた
原点の発想法が、随所に
色濃く息づいています。

**歓声があがるたびに
幼なじみの友情が深まる。**

**ピカリン出前講座で、
縄文人の心を体感。**

村のピカリン出前講座。たとえば公民館と学校の連携で、
小学6年生の社会科授業で開設。
今回は県立会津博物館の出前講座プランと意気投合し、
貴重な縄文体験学習を実現。クルミを石で割り、
ニジマス石器でさばき、火を起しながら、
自然の恵みにひざまずいて感謝する
心豊かな郷土の先人の暮らしの温もりを学びあいます。
この実践が評価された担当学芸員が、
第1回日本ミュージアムマネジメント学会賞に
輝きます。北会津からの発信でした。

**英語のユーモアを体感し、
地球人意識がときめく。**

通年の英語指導助手を招致し続け各種講座を設ける一方で、
小中学生国際交流海外派遣事業、高齢者の「いきいき見聞録」事業、
それに村役場職員の海外派遣研修などを通じて、
村の仲間の国際感覚が年々豊かになっています。
ネット社会の拡充によって日常的に海外と直結する
地球市民時代が、北会津村内の茶の間にも足早やに到来。
コンピュータ時代の公用語となった英語力の習得を急ぎます。

